

施策No.	政策名	快適な暮らしのまちづくり	主管課	生活環境課	主管課長名	佐谷 智
5-7	施策名	廃棄物の抑制と適切な処理	関係課	なし		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
	ごみの発生が抑制され、適正な処理が行われている。	・市民 ・市内で発生した廃棄物(ごみ・し尿)	①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
実績値					41,278	40,483	39,692	38,905	38,422	
②市内のごみ総排出量(事業所分を除く)			t	見込値	10,760	10,755	10,750	10,745	10,740	
				実績値	9,395	9,446	9,384	9,585	9,430	
③し尿処理量			t	見込値	15,050	15,000	14,950	14,900	14,850	
				実績値	14,628	15,610	16,100	15,067	14,680	
施策の意図		成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	
			①1人1日当たりのごみ排出量	g	目標値	680	680	680	680	680
					実績値	626	639	656	673	666
			②資源物比率(資源ごみ÷ごみ総排出量)	%	目標値	9.2	9.4	9.6	9.8	10.0
	実績値				9.4	8.9	7.4	9.0	8.9	
	③可燃ごみの搬入量		t	目標値	8,780	8,760	8,740	8,720	8,700	
				実績値	8,229	8,292	8,301	8,289	8,046	
	④不燃ごみの搬入量		t	目標値	470	440	410	380	350	
				実績値	284	309	386	431	462	
	⑤資源ごみの収集量		t	目標値	910	920	930	940	950	
				実績値	882	845	697	865	832	
成果指標設定の考え方	○発生が抑制されるは、①「市民1人当たりのごみ排出量」が減れば、ゴミの減量化につながるかと考えた。 ○適正に処理がされるについては、②資源物比率、③④可燃・不燃ごみの搬入量、⑤資源ごみの収集量で把握する。									
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の桜川市人口は毎年10月1日現在の常住人口 ○対象の「市内のごみ総排出量」は、事業所から排出されたもの(事業系一般廃棄物)は除いている。 ○ごみの発生を抑制していく意図の経年変化を見るために、成果指標を1人1日当たりのごみの排出量(市内のごみ総排出量/常住人口)とした。 ○適正処理については、資源物比率を見ることで把握する。 ○可燃、不燃ごみの搬入量は環境センターへの搬入量									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)		
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した	<input type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば向上した
	<input checked="" type="checkbox"/> 成果がどちらかといえば低下した	<input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1日当たりのごみ排出量は、令和2年度が673g、令和3年度は666gで、前年度と比べ7g減少し成果が向上している。</li> <li>・資源物比率は、令和2年度が9.0%、令和3年度が8.9%と0.1ポイント減少しており成果が低下している。</li> <li>・可燃ごみ搬入量は、令和2年度が8,289t、令和3年度は8,046tで、前年度と比べ243t減少しており成果が向上している。</li> <li>・不燃ごみ搬入量は、令和2年度が431t、令和3年度は462tで、前年度と比べ31t増加しており成果が低下している。</li> <li>・資源ごみの収集量は、令和2年度が865t、令和3年度が832tと、33t減少しており成果が低下している。</li> </ul> コロナ禍の影響により、可燃物の排出量が減っても1人1日当たりのごみ排出量が増加しており、不燃物、資源物も全体的に増加したと思われる。	
2) 成果目標の達成状況		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを上回った	<input type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を上回った
	<input checked="" type="checkbox"/> 一部の成果指標で目標値を下回った	<input type="checkbox"/> 目標値の全てを下回った
背景・要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1日当たりのごみ排出量は、令和3年度の目標値680gに対し、666gで14g目標値を上回った。</li> <li>・資源物比率(資源ごみ÷ごみ総排出量)は、令和3年度の目標値10.0%に対し8.9%で、1.1ポイント目標値を下回った。</li> <li>・可燃ごみ搬入量は、令和3年度の目標値8,700tに対し、8,046tで654tで目標値を上回った。</li> <li>・不燃ごみ搬入量は、令和3年度の目標値350tに対し、462tで112t目標値を下回った。</li> <li>・資源ごみの収集量は、令和3年度の目標値950tに対し、832tで118tで目標値を下回った。</li> </ul> 成果目標の達成状況については、1人1日当たりのごみ排出量、可燃ごみ排出量で目標値を上回ったが、3つの項目で目標値を下回ったことが重視されることから「一部の成果指標で目標値を下回った」と評価した。	

3. 施策の成果実績に対するの総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対するの総括	今後の課題・方針
令和3年度は、「資源ごみ分別収集事業」、「ごみ減量化啓発事業」の貢献度が大きかった。 ・資源ごみ分別収集事業においては、全てのリサイクル集積所にごみの出し方看板を設置し、解りやすいごみの出し方を周知した。この分別収集は毎月各行政区から排出された資源ごみを売却し、行政区に分別報奨金として実績に応じて還元しています。 ・ごみ減量化啓発事業においては、定期的に広報誌や市HP等を通じて積極的に啓発を行い、ゴミの減量化に努めた。	・資源ごみ収集の増加するためには、不燃物と可燃物、ごみの減量化を合わせて考え、解りやすいごみの出し方カレンダーの刷新し、家庭での分別取組対策が必要である。 ・広報やイベント等を通じて積極的に啓発を行い、ごみ減量化を促すとともに、リサイクル製品を細かに分別する取組を展開する。